令和２年度第２回立川市第３次観光振興計画協議会　要旨

会議名称	立川市第３次観光振興計画協議会
開催日時	令和３年２月８日（月曜日）　午後７時 00 分～午後９時 00 分
開催場所	立川市役所 101 会議室
次第	１．開会 ２．議題 (1)　立川市第３次観光振興計画の進捗状況について ①　シェアサイクルについて ②　立川観光協会推奨認定品等について ③　観光ポータルサイトの構築について ④　立川ロケーションサービスについて ⑤　その他 (2)　情報交換 ①　コロナ禍において、新しく取り組んだこと ②　コロナ禍において、新しく取り組むべきこと ３．その他 ４．次回日程
配布資料	資料１－１　立川市自転車活用推進計画　概要版「Fun to cycle」 資料１－２　「自転車×観光」をテーマとした施策の検討 資料２　くるりんラベルシリーズ（新商品）イメージ等 資料３　たらった立川アクセス解析レポート 資料４　立川市第３次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート 令和２年度第１回協議会議事録
出席者	［構成員］ 会長：岩﨑太郎、副会長：岩下光明、小野和久、都築諒、中田龍哉、 穂積計人、及川卓也、嶋津隆文、木嶋雅史、鈴木義嗣 ［事務局］ 奥野武司（産業観光課長）、津﨑政人（観光振興係長）、 岸田知裕（観光振興係）、太田眞実（観光振興係）
欠席者	前田千歳、矢ノ口美穂
話題提供者	立川市交通対策課 （庄司交通対策課長、石原自転車対策係長、梶自転車対策係主事）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	０人
会議結果及び要旨	令和２年度の関連事業の進捗並びに新型コロナウイルスに関する各関連団体等の状況について共有した。 本会議で各委員の任期（２年）が満了となるため、次回については、改めて市民公募及び各団体への推薦依頼を実施する。
担当	産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係 電話 042-529-8562

１．開会

（会長）

緊急事態宣言の中、皆様、お仕事、また生活に様々支障があることと思うが、立川市の観光事業にもうしばらくお力を拝借したい。まず、配布資料の確認を事務局からお願いします。

（事務局）

本日の配布資料は、「本日の次第」、「資料１－１　立川市自転車活用推進計画　概要版」、「資料１－２　『自転車×観光』をテーマとした施策の検討」、「資料２　くるりんラベルシリーズ（新商品）イメージ等（立川観光協会のHPイメージ図）」、「資料３　たらった立川アクセス解析レポート」「資料４　立川市第３次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」、その他資料として、「令和２年度第１回協議会議事録」になる。

２．議題

（会長）

それでは早速議題に入らせていただく。議題(1)は、第３次観光振興計画の進捗状況の確認と報告。まず、①シェアサイクルについて（施策５－２、６－１）、資料をご覧いただきながら、こちらの説明を交通対策課よりお願いしたい。

（交通対策課）

市は、昨年12月に「立川市自転車活用推進計画」という冊子を作成した。今まで、自転車の計画については、「止める・乗る・走る」ということに主眼を当てて作ってきたが、今度の計画からは「活用」にスポットを当てて、まさに観光等を狙って、踏まえて計画作りをしている。

自転車の「活用」ですので、交通手段としての自転車だけではなく、余暇ツール、サイクリング、買い物、まさに観光、そういったもの。また、コロナ禍において、自転車は比較的コロナにも強いという側面もあり、健康面や環境面からも優位ということから、そういった記載もしている。

立川市は自転車に適した自治体といえる。富士見町の方は少し坂が多くなるが、アップダウンも割合少なく、非常に自転車を活用しやすい自治体と考えている。

今、色々な自転車があります。電動アシストタイプ、スポーツタイプ、ママチャリ、お子様を乗せて走る自転車など、多様化してきている。そういった中で、立川市には非常に多くの方が来訪されている状況。現に、立川駅前でレンタサイクル事業を行っているが、非常に多くの方が利用され、観光に、買い物にと使われている状況がある。非常に可能性が高くなっている。

また、来訪者の方だけではなく、立川市民の方が外に出ていくことも必要と思っている。普段自転車に乗らない方が、電動自転車を使って外に、観光地にと。電動自転車だと3～40㎞走る方もおり、近くで観光をし、買い物をして、という自転車の使い方がここ何年かで変わってきている。健康面も含め、そういった可能性を秘めているということで、本日お話しする。

自転車を、「通勤」ということもあるが、より広く捉えている。市民の方だけではなく、来街者、近隣９市だけではなく、色々な方が立川市に来られる状況があるので、立川市を知ってもらいたい。また立川市だけではなく、他の近隣市にも足を運んでいただく。そういったことが多摩地区全体の利益につながるのではないかということも考えている。

その中でシェアサイクルというのは、自転車を乗り捨てて、電車に乗って、また自転車に乗ってといった、様々な幅が広がるような展開が見込まれる。立川市にシェアサイクルのポートをいくつか置くことによって、その幅がもっと広がるのではないかと考えている。

質問、意見等をいただいて、自転車施策に反映させていきたい。

（交通対策課）

資料１－２は「自転車、シェアサイクルなどをツールとし、既存の観光施策とどう絡めていけるか」といったことを想定して「『自転車×観光』をテーマとした施策の検討」というタイトルをつけている。意見をいただき、今後の検討の参考とさせていただきたいというスタンス。検討の背景にあるデータや社会情勢を、もう少し詳しく説明する。

検討の背景①として、「コロナ禍における自転車利用の変化」がある。立川駅北口のタクロス２階にある駐輪場内で、「T-BIKE」というレンタサイクル事業を平成 29 年度から実施している。

コロナ禍において、利用件数、利用金額それぞれ増加している。平成 31 年度と令和２年度の上期（４月～９月）で比較すると、利用件数が 132%、利用金額も 133%と非常に伸びている。

令和２年９月の利用目的の割合を見ますと、今回テーマとしている「観光」の割合は 24%となっている。コロナ禍でこの割合が非常に増えている訳ではなく、ウーバーイーツが流行ったことでビジネス利用の割合が非常に多くなっている。

観光利用の内訳を見ると、国営昭和記念公園の割合が非常に多い状況がずっと続いているが、コロナ禍で八王子市の高尾や、日野市の豊田。豊田に何があるかが分からないが、非常に伸びている。あとは国分寺など。市域を跨いだ移動の需要がかなり増えているということが見て取れる。

検討の背景②として、自転車活用推進計画を令和２年 12 月に制定された。自転車活用推進法という法律が制定されたことで、「社会全体的に自転車をツールとして多方面に活かしていこう」という潮流が今ある。自転車活用推進計画の全てを紹介するには時間的に難しいが、その中で商業・観光関係者等と連携したシェアサイクルの導入・検討、観光視点の施策展開といった内容を盛り込んでいる。

シェアサイクルについては、「立川市内をグルグルするためのツール」として位置付けているわけではなく、立川市域に留まらない、例えば、立川市を取り巻く８市を中心とした９市、そういった広い範囲を見据えて、広域連携を前提とした事業として掲げている。広域連携の考え方については、後ほど詳しく説明する。

観光視点の施策展開については、シェアサイクルを既存の観光施策とどう絡めていけるか。自転車に乗られている方はご存知と思うが、自転車には拠点間の移動がしやすいというメリットがある。小回りが利くため、新たな回遊を生むことができるツールであると考えている。

そもそもレンタサイクルとシェアサイクル、この２つの定義は何かというのを説明する。レンタサイクルは１ヶ所のポートで貸出と返却をするシステム。立川駅北口のレンタサイクルも、そこで借りたら立川駅まで戻ってきて返さなければいけない。そのため、動きとしては決まった動きになる。

一方、シェアサイクルは貸出したポートと異なるポートにも返却することができるシステム。ポートの置く位置の工夫で、新たな動きを促すことができるといったツール。

シェアサイクルを導入するとなったときの目的・対象として、現在、産業観光課と交通対策課の中で案として考えているものを紹介する。１つ目は、来訪者の行動変容を促して、回遊の魅力を向上させること。２つ目は、立川圏域全体の交流人口の増加を目指すこと。

行動変容というのは、新たな動きを作り出すということ。既存の拠点同士にシェアサイクルのポートを置くことで、行き来が容易になる。既存の動きではない、新しい動きを作り出していく。それによって、回遊の魅力が向上するのではないかと想定している。立川圏域全体の交流人口の増加については、資料にイメージ図を入れたが、立川経済圏は、立川市を中心とする９市を想定してい

る。現在、多摩地域からの来訪者が８割といわれている。シェアサイクルを、外から人を呼ぶきっかけづくりの１ツールとして導入することで、立川圏域全体の交流人口の増加につながるのではないかと想定している。

メインターゲットとサブターゲットは、あくまで実証実験として導入した際の想定となっているが、メインターゲットは若年から中年層。広域的に自転車を移動させるという前提で導入する際に、アクティブに移動することができる年齢層としてこのような層をメインの対象としている。住まいは、立川圏の外、例えば、23 区等。用途・目的としては、来訪者の行動変容を促して、新たな来訪者の増加につなげること。こういったことをメインターゲットとしてやっていきたいと考えている。

サブターゲットとしては、もちろん多摩地域、立川圏の中の人達をないがしろにするわけではなく、そういった方に対しては、余暇的な移動に自転車を用いてもらうことで、新しい価値を付加していく。既存の車や公共交通ではできないことをしてもらうためのツールとしても有用ではないかと考えている。

行動変容については、ゼロベースではなく、やはり既存の資源同士を繋げたり、幅を広げたりといったことを想定している。例えば、立川圏の外（23 区や山梨県、川崎市など）から電車で立川駅まで来て、徒歩等で国営昭和記念公園や IKEA に移動する。これが既存の想定される行動。その先の第２の目的地、第３の目的地に行ってもらう、そういった行動を促す。そのためのツールとしてシェアサイクルが有用なのではないかと考えている。そういった行動を促すことで、圏域全体の回遊の魅力が向上するのではないか。それによって、来訪者のパイを大きくすることができるのではないか。以上のようなことをイメージしている。

本日の検討事項として、１つ目は「シェアサイクルを使うことが効果的な既存事業について」。ゼロベースで何かを生み出すということではなく、シェアサイクルを使うことで、どのような現在の事業と相乗効果が得られるか。何にどう絡めることができるのか、というのがまず１点。

２点目は「来訪者の行動変容促進の具体策について」。既存の行動パターンがこうで、シェアサイクルがあると、こう変えられるのではないか、どう変えていけるのか、というのが２つ目。

３つ目は「PR 策について」。どう知ってもらって、どう使ってもらえるのか。

皆様、色々な立場の方が集まる協議会なので、それぞれどんな協力が得られるのか。市の中だけで検討しても答えがでないことなので、ご意見いただきたい。

（会長）

まずご説明をいただいた中で、ご質問、ご意見、ご提案を皆様からいただきたい。

（H 委員）

ここでいう自転車×観光というのは、例えば市役所で 100 台位の自転車を購入し、それを「どうぞ皆さん使ってください。」というイメージでやっているのではないかと思っている。

私は立川周辺に住んでいて自転車を使用しているが、１番欲しいのは、駐輪場。自分の自転車で、駅や買い物に行く、その際に駐輪場がない。立川の自転車は３～４万台位あるのではないかと思う。そうすると３万台のマーケットがあって、それをどう動かすか。「自転車における観光」ではなく、「観光を含んだ生活」と考えて、単に外から来る人達を走らせることも大事だが、もっとトータルの３万台を活かした、立川の街の活性化や楽しみ方をどう工夫するかという視点があってもいいかと思う。既にやっていることかもしれないが。100 台、200 台の話を突然言われても、それは勝手にやってくれという話で、私にとっては３万台のほうがずっと効果が大きいのではないか、といった印象を持っている。

（交通対策課）

ご指摘のとおりで、観光のためのシェアサイクルの考え方だが、市として用意するというところまでは決定していない。できれば民間の能力を使って、ポートを様々なところに設置して、それが結果的に100台など分散する形で、市は市内事業者を探すといった取組を考えている。

市民の方の自転車利用については、本日ご説明できなかったが、活用推進計画の中で様々にうたっているところ。自転車走行環境を整備することで、快適に活用してもらう。通勤・通学の足としても、健康面でも、計画に盛り込んでいる。

今回は「観光振興計画協議会」ということで、観光に特化してご説明させていただいたが、もちろん市民の方の自転車利用についても大事なこと。市民がさらにご自身の自転車を使って、観光ができるというところまで持っていきたい、というのはご指摘のとおり。普段、通勤の足としてしか使っていない方を掘り起こしていくということも必要かと考えている。

（H委員）

私の中で考えている観光というものは、外から来て物見遊山するということではなく、生活そのものが今や観光だと思っている。あえて、例えば八王子から来る人達のためにどうこうするということもあっていいとは思うが、そうではなく、暮らす人そのものが「ここで暮らして良い」とか「楽しい」とか思えるものが、本来の意味での観光になっている時代。あえてすごく狭めた話で説明していただかなくても、もっとどんと構えて「立川の街に自転車がどう生かせるのが一番いいか」といったことを論じていただいた方が、実態にあっていると思う。それを商店街にやらせるのか、どなたにやらせるのかわからないが、そういうレベルの話ではないと思う。さっきから違和感がある。

いずれにしても、広い目線で、トータルとしての、立川の自転車をどう活かした生活を市民に提供するか、来た人に提供するかという形で論じていただくことも大事ではないか。

（会長）

交通対策課でも、一般的な市民向けの「止める・乗る・走る」、駐車対策、放置自転車対策、相乗り等、自転車の活用についてはすでに、ずっとやっていただいていると思うが、ここで改めて「観光」という視点で、クローズアップしていただき、自転車の扱いを計画に入れようという経過があったという内容だったと思うが、民間事業者というので思い出したが、国立駅前でも、「nonowa」でやっていたりするかと思うが、あれは国立のまちづくり協議会、観光まちづくり協議会と連携しているのか。

（交通対策課）

国立はもともとメルカリという事業者が、「メルチャリ」というシェアサイクルをやっていたが、今はオープンストリートという事業者が、国分寺市や小平市と同じシステムでシェアサイクルをやっている。確か駅前に30台位の、大きなポートを設置していると聞いている。

（会長）

そういうものを活用しているという情報も、市の方で把握しているということでよいか。

（交通対策課）

年末に国立市の担当にも話を伺い、共有している。

（副会長）

こういうことができればいいな、という検討事項のアイデアの前に既存のシステムについて簡単に知りたい。何台あるのか、電動アシストタイプはあるのか、料金、空いているか空いていないかを WEB で確認できるか、返却ポートの数。これを確認させていただきたい。

（交通対策課）

T-BIKE はレンタサイクルのため、ポートは１つ。台数は 20 台だったのが、ここで 10 台増やして 30 台になった。料金は、会員登録をすると６時間 400 円。自転車は電動自転車。空車の状況は HP 上では確認できないため、現地に行っていただいて空きがあれば使える。

（副会長）

この資料は、現状に基づいたデータということでよいか。

（交通対策課）

その通り。

（副会長）

今の質問の中にも１つあったが、空いているかどうかというのは、手元で確認できるようなシステムが絶対あった方が良い。

効果的な既存事業については、商店街でもやり始めているが、自転車を使ってルートを回る。今は WEB 上に自分で登録しておくと「このルート行けるよ」というようなルート作りをし、レンタサイクルを使うこと自体がアミューズメントになるような仕掛けを作る。仕事で使う、買い物で乗るなどではなく、乗るために行くという形にしていくのが観光ではないか。

また、組んだルートを行く中で「このお店に寄れば、レンタサイクルのお客さんにはポイントがもらえる」、「商店のサービスを受けられる」というような組み方をすると、乗りたいと思う人が増えるのではないかと思う。

ぜひその際に、今回立川市は PayPay と組んだが、PayPay とか LINE と組むと、LINE のオフィシャル登録をすると、スタンプカードとか LINE のポイントが貯まっていったりするので、そういった形が取れないか。それができると、リピーター対策をやったほうが良い。毎週土日に乗るとどんどんポイントがたまるとか、そういった形でレンタサイクルを一つの遊びにしてしまうというような建付けでないと、つながっていかないのではないか。

広域連携と民間活用というのはぜひ進めていただいて、行政は最初のイニシャルコストを出していただきたいとは思うが、それ以外に歩道空間の緩和をして、ポートをたくさん作れるようなシステムが市内にあるといいのではないか。

（交通対策課）

ルート作りは大事だと思っている。自転車に乗った方がサービスを享受できるようにするには、初めて市に来る方はもちろん、立川市民の方でも意外とまだ知られていないスポットもあるため、ルート作りは大事だと思う。PayPay などの支払い関係やポイントについては、現在話をいただいている事業者から電子マネー等の話がきている。ポイントについては今後検討かと思う。

リピーターを増やすことも大事だと思っており、T-BIKE についてもリピーターの方が非常に多くなってきているため、立川に来て T-BIKE を使って、ビジネスかもしれないが、観光、そういったと

ころが広がっていくのではないか。

広域連携については、市長も立川市を中心に色々な取組をしており、例えば、本の利用ですと図書館の共同利用などもやっている。その次のメニューとして、自転車の利用についても広域的にできないかと話をいただいている。そういったことも親和性がある事業だと考えているので、ご意見等を踏まえて、取り組んでいきたい。

（副会長）

もう１点。どこかの大手の事業者だけが儲けるためにそれをやるというのは、本当につまらない。市内での購買活動、お金を落とす活動につながるような仕掛けがないと、あまりやる意味がない。外から来た人がごみだけ落として帰ってしまうというのは、市が手掛けるにはいい事業とは言えない。その購買活動につなげるのが、商店街とのタイアップであり、クーポンであったり、ポイントであったりと思うので、ご検討いただきたい。

（I 委員）

自分自身が自転車好きで、奥多摩でレンタサイクルのガイドを５年位やっていた。「奥多摩で自転車を借りて、青梅の河辺という駅で返せる」というレンタサイクル乗り捨ての観光ツアーをやっていた。広域連携が自転車の楽しさを作り出すのに非常に役に立つと思っている。

それを、シェアサイクルを仕込みながらやっていくとなると、シェアサイクルは「借りたいところで借りられて、どこでも返せる」というところが非常に重要で、上手くいっている事例と上手くいっていない事例が分かれている。自転車活用推進研究会というのがあり、そのメンバーでもあるが、シェアサイクルで上手くいくには、パリの「ヴェリヴ」という有名な事例があるが、そこで上手くいったのは、「2,000 台の自転車をどこでも借りられるように街中に設置ができたから」という、2,000 台の壁というのがあり、世界の上手くいっている都市では、2,000 台以上準備している。そうではない所は、あるけれど借りるまでに時間がかかる、距離がある。そうなってしまうと、利便性が下がるので、その辺の最初の仕掛けが大切なのではないか。

横浜の「BAYBIKE」というレンタサイクルがある。そこの仕掛人を知っているが、そこで難しかったのは、「ポートを作る」というところ、「協力者を求める」というところ。商店街の人達は、「総論としては賛成だが、自分の土地にポートを作るのは嫌だ」という人達が結構いたということがあった。そこをどうやって支援をしていくのかは、非常に大事になるのではないかと思う。

観光で使うとなると、自分も T-BIKE を使って、友達を呼んで立川を案内する際、立川市子ども未来センターやたちかわ創造舎、根川緑道の花見など「駅から歩くと遠いけど良いところがあるんだよ」という所を案内しているが、現在の T-BIKE の弱点になっているのは「予約ができない」ところ。台数が 20 台しかないのに、予約ができなくて、５人とかのツアーはできませんという話になってしまう。確実に予約ができて借りられるとかでないと、呼んでもツアーができるか分からないといった状況。予約のところを改善していくのがいいのではないか。

あとはマップ作り。日本で自転車の一番の観光、サイクリストの聖地と言われているのが、しまなみ海道。あそこはマップ作りに非常に力を入れており、街をよく知っている人がガイドマップを作ることをとても頑張っている。どんどん新しい情報が出てくる。そうなると、そこに来た人達が、ガイド役になっている人から、「あれもある。これもある。それもある。」と言われると、「一日じゃ回り切れないから、もう一泊しちゃおうか」となる。そういった情報量の多さを提供しながら、「なんならガイドします」と。そういったことを作っていくことができると、だんだん「立川って面白いらしいぞ」という仕掛けができていくのではないか。

パリは200万人住んでいて2,000台。だから、立川は、立川だけでやると無理だが、９市合計で100万人位になるので、そこを合わせたポートで1,000台というところを目指していくような、大きい仕掛けができるといいのではないか。

PR策の一つとしては、琵琶湖とか浜名湖とかを一周する、自転車のアトラクションで「びわいち」、「はまいち」というものがある。立川だと、多摩湖一周は簡単にできるから、「たまいち」みたいなのを仲間に入れてくださいということでやってみるもの良いのではないか。一周するのが、合わせて７湖位あり、「全部集めてドラゴンボール」というようなことをやっている仕掛けもあったりする。もともと盛り上がっているところに仲間に入れてもらいながら進めていくというのもいいのではないか。

（交通対策課）

ポートについても重要だと考えている。何百メートルかごとに１つあって、ご協力いただけるような形で、もちろん市の用地にもできれば設置して、あるいは民間の力もいただいて、様々なところで借りられる機会があればいいのではないかと思う。

T-BIKEの予約については課題になっており、駐輪場の業務自体を指定管理者という制度でやっており、その一部の事業としてやっている。これが思った以上に好評だということもあるので、できるかどうかは話をしてみたい。

マップ作りについても、大事な話だと思う。しまなみ海道のようにできるかはわからないが、そういったことも視野に入れてやっていきたい。

（会長）

これは、自転車活用協議会か何かでも同じような課題で検討をするのか。

（交通対策課）

自転車活用協議会を２月初めに予定していたが、緊急事態宣言が出たところで中止となってしまった。今後、自転車活用協議会でこういった話をする機会がいつになるかは未定。

（会長）

次年度事業として計画されているのか。

（交通対策課）

そこまで具体的にはまだ進められていないが、担当者レベルとしては来年度中に何かできればと思っている。

（会長）

次に、②（施策１－２）、③（施策４－１）、④（施策５－３）について、続けて、立川観光協会のC委員よりご報告いただく。

（C委員）

議題の②、③、④についてご報告させていただく。まず、立川観光協会の推奨認定品等についてということで、立川観光協会の推奨認定品審査会については、現在募集中。１月22日（金）から２月26日（金）までということで、審査日の日時が３月５日を予定しており、現在３件の問合せ。資

料でお配りしている、くるりんラベルシリーズについては、新商品ですが、副会長が作っており詳しいので、ご説明いただきたい。

（副会長）

実際の物をお持ちしたので回覧いただきたい。くるりんを使用したマスクと缶バッジ。地元のクリエイターの方とコラボした形で、地域のデザイナーを使おうということで商品化。くるりんラベルシリーズということで、このあと文具含めて、いろいろ広げていければと思っている。

（C 委員）

くるりんのぬいぐるみストラップについては、現在販売してきたぬいぐるみの在庫が少なくなってきたことから、こちらのストラップを作成している。今年度中に作成し、価格は 1,000 円程度。

立川観光協会の HP のリニューアルについて、イメージ図をお出ししているが、前回の作成から 10 年以上経過しているため、外部デザインに対しても不具合が出てきている。また、スマホ対応にもなっていない、編集・修正が独自にできないなど、色々な問題点があるため、現在変更している。

立川ロケーションサービスについては、７月からデイ・ナイトというところに委託しており、実績として６か月間で 27 件、手数料収入が撮影の委託費収入の 20％191,000 円で、月３万円程度の収入。こちらに依頼したことで、観光協会へのロケの問い合わせも大幅に減少しており、成果分配金の収入も出ている。新規のロケ先の協力についても、デイ・ナイト担当者が営業しており、増加している状況。

（会長）

それでは、「資料４　立川市第３次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」について、各施策の進捗状況を事務局から報告します。

（事務局）

「資料４　立川市第３次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」に沿って、進捗状況を説明する。すべて紹介するという形ではなく、一部取り上げて、特に動きがあったところを中心に。

１ページ目「施策１－２（１）立川観光協会推奨認定品の拡充」については、先ほど現状を説明いただいた。これに関連する情報として、「資料３　たらった立川のアクセス解析レポート」をご覧いただきたい。

「たらった立川」とは、立川の「輝く個店」として表彰されたお店の紹介を通じた、市内の楽しみ方を発信する WEB 上のサイト。月間の PV が約 10,000～13,000 程度あり、観光に関連する市の情報のサイトとしては、比較的多く見られているものになる。

このデータの中で市が注目しているのは、サイト内の月間アクセスランキング。TOP20 というもので示しているが、「立川絶賛逸品土産」がほぼ必ず２位、TOP ページを除くと実質１位となっている。PV が 1,300、その下が 900 と、個々のページの中では少し抜けて閲覧されている。

推奨認定品の拡充については、一部新商品の開発も見られているところではあるが、その発信の仕方や販売方法等、注目をいただいている。「立川のお土産ってどんなのだろう」と検索して情報が欲しい方がいる中で、まだまだ改善の余地もあるのではないかと考えている。

また、現在、商工会議所が中心となって進めている MICE の受入環境整備の観点や、令和４年度に開設が予定されている南口 58 街区の魅力発信拠点での取扱商品の充実といった観点からも、より

「立川のお土産品」の拡充というのが期待される部分かと考えている。これまでの取組や現状の課題、取組状況等を共有することで、今後の推奨認定品の拡充に向けたヒントやアイデアになれば、そういった視点で、後ほど委員の皆様にも意見をいただきたい。その議論を活発化する一つの参考資料として、お土産品というのは、それなりの注目をいただいているということを紹介した。

続いて、２ページ目「施策２－１（２）サンサンロード周辺エリアの新たなマネジメント手法の検討」について。サンサンロード周辺エリアにおけるエリアマネジメントの可能性を探るため、今年度は周辺事業者で構成する連絡会を立ち上げて、イベント等に関する情報交換という形から入っていくことを想定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、サンサンロードを活用したイベントが軒並み中止となるなど、主たる報告も議題もなく、また情報交換のみでこの状況下に集まっていただくのは難しいだろうと考え、進め方の見直しを事務局としては考えていた。

そんな折、グリーンスプリングスの運営主体である立飛ホールディングスより、「サンサンロード周辺の企業等と連携した、グリーンスプリングス及びサンサンロードをエリアとした、年間通じて複数回のイベントを行いたいと考えている」という情報提供をいただきました。「様々なイベントの開催を通じて、エリア全体の魅力やにぎわいの創出を図る。また、街全体への回遊性の向上など、街の発展に寄与することを目指すといった主旨で、周辺事業者と実行委員会組織を立ち上げたい」という話だったので、その実行委員会での活動が将来的なエリアマネジメントに向けた一歩になりうると考えていることから、産業観光課としてもこの活動としっかり連携を図っていきたいと考えている。

続いて、３ページ目「施策３－１（１）「文化・芸術のまちづくり」を観光資源として磨き上げる」について。こちらに関連した取組として、２点報告させていただく。

１点目は、令和２年 10 月にグリーンスプリングス内にある美術館と子どもの遊び場を中心とする複合文化施設「PLAY!」と市が相互連携協定を締結し、文化・芸術の振興や観光施策などに関する連携事業をスタートしている。

具体的には、市内在住・在学の方の割引制度が 11 月よりスタートしているほか、小学生の鑑賞教室への協力や出張ワークショップの開催に関して、検討・準備を進めている。観光担当としては、立川を旅先、訪問先のひとつとして考えて、選んでもらえるきっかけとなる、強力な観光資源のひとつとして、今後も連携を深めていきたいと考えている。現状でも、来街者の中では、都内の世田谷や杉並といった区部からのお客様が、立川市内の住民よりもむしろ多く来ていると聞いている。魅力のひとつとして連携を図っていきたいと考えている。

２点目は、立川ロケーションサービスの活動の一環で、日本テレビの「世界一受けたい授業」で取り上げられたことをきっかけに、「ファーレ立川アート」の認知度や訪れたい場所としての注目度が上昇している。

先日、エキュートの中にある施設「東京観光情報センター多摩」で担当が話を伺ったところ、立川市のパンフレットの中で今一番持っていかれているのは、ファーレ立川アートに関連するものとのこと。また、高島屋のインフォメーションコーナーにおいても、ファーレ立川のお問い合わせが多いことから、ラックを設けてチラシや案内マップを配付するようになったと伺っている。JR 立川駅の副駅長からもファーレアートの魅力を改めて知って、立川駅としても積極的に PR していきたいといった声も伺っている。ぜひ、こういった追い風を様々な施策に生かしていきたいと考えている。

続いて、４ページ目「施策４－１（１）観光ポータルサイトの構築」ですが、令和３年度の予算要求において、たらった立川のページに多言語の観光スポットを紹介する追加の HP 改修の要望を出していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による市税収入の減少、コロナ対策予算の増加

等により、残念ながら予算措置が見送りという形となった。

今後は、立川を認知していただき、旅先の候補とした際に、そこでの行き先を検討する情報サイトとして、たらった立川のサイトの魅力を充実させるのか、それとも立川観光協会のサイトの魅力を向上させるのか。地域全体でどういう形で情報を発信し、いわゆるサイトパワーをどのように上げていくべきか、協議しながら進めていきたいと考えている。

また、「施策４－１（２）観光案内所機能の整備」については、「東京観光案内窓口」という制度にグリーンスプリングスのインフォメーションコーナーに申請いただき、この２月に指定をされたため、インフォメーション機能を「東京観光案内窓口」としてスタートしている。

今後は、グリーンスプリングスで取り組んでいただいたことをきっかけに、街中のインフォメーション機能を持つ施設、例えばグランデュオや伊勢丹等の商業施設におけるインフォメーションコーナーに、「東京観光案内窓口」になっていただけないか、お願いに伺っていく予定。

「東京観光案内窓口」といった街中のインフォメーションで、地域のことも案内していただくことで、「まちなかコンシュルジュ」のような場所を増やし、街の観光案内機能を強化していければと考えている。

続いて、５ページ目「５－３（１）観光振興のための自主財源確保」について。先ほどのご説明いただいた通り、ロケーションサービスの収益の一部が観光協会に納入される仕組みを今年度構築することができた。観光協会や産業観光課のロケ支援の業務負担を軽減しつつ、観光振興にかかる財源確保につなげられることがわかったため、引き続きロケ支援を充実させて、収入源として育てていければと考えている。

最後に６ページ目「６－１（１）広域的な連携体制の確立」について。東京都市長会と多摩地域市町村観光地域づくり主管課長会が検討した結果、多摩地域版 DMO の設立は実質的に難しいとの判断に至った。今後は、「青梅線エリア女子旅推進事業」や「南武線沿線活性化事業」など、個別の広域連携体との事業を推進していく形になるかと思う。

(会長)

G 委員、立川以外の各自治体の取組や特産品、様々な活動について情報提供いただきたい。

(G 委員)

私もコロナの影響でなかなか、実際に地域に入ることのできない状況で、「これは」という情報を皆さんお伝えするものが今、手持ちがそんなにあるわけではないが、今お話しを伺ったり、この１年の状況を見たりすると、従来の観光というものが、実際に人が移動するということが厳しい状況の中で「観光というものをもう一度、ポストコロナに向けてどのように新しく捉え直していくか」ということを色々な自治体なり、街が取り組んでいるというのはちょこちょこと拝見しているという状況。「今ここが」というようなところがぱっと見当たらず、ご紹介できるわけではないが、立川市が PLAY！MUSEUM との協定を締結されたということは非常に楽しみなトピックスではないかと思っている。立飛、ソラノホテルやグリーンスプリングスのイベントでも、「ウェルビーイング」というテーマを掲げられている中で、先日もソトコトの指出さんと免疫学者の石川善樹さんのトークイベントなどをされているという情報も入ってきている。今、健康面での心配、人と人との距離感や関係性とか、コミュニケーションの難しさがある中で「どう健やかに暮らせるか、いられるか」ということ自体が、観光の大きなテーマになってきているのではないか。

「アクティビティからホスピタリティへ」というような、ホスピタリティも「ウェルビーイングへ」というような状況になり、ますますこれから増えてくる。その有用性というか、「落ち着いてい

る感じ」というもの、居心地を立川でも作っていけるかがひとつポイント。

自転車の話も、健康増進とかそういう話もあるだろうが、外から来られた方々が、街中でどのような回遊ができて、そこにどういう気持ち良さ、心地良さを感じていただくかをベースに考えていく必要があるのではないか。

今日の話受けて、自転車のことや、他のことに関して何かご紹介できる資料があれば、後日になるが紹介したいと思う。

(J 委員)

興味があるのはやはりグリーンスプリング。コロナの中で外出できないが、１回だけちょっと見に行った時に、すごく雰囲気が良くて、私の個人的なイメージでは、香港に行った際にそういう場所があったのだが、ビルに囲まれた中に緑も映えているような、それとまさに合致していてすごく印象的だったのを覚えている。すごくポテンシャルがあるところだと思うので、今後がすごく楽しみ。状況が状況なだけに今は厳しいが、長い目で見ればすごく良いものができたと思うし、立川のひとつのシンボルのようになっていくのではないかと思っている。

あとは、なかなか、やはりどの活動も厳しい状況だなと感じた。

(I 委員)

アクセス解析のレポートが気になっている。最初にまず「逸品土産」が月間 1,354PV ということで、30 日で割ると１日「50」位しかアクセスがない、24 時間で割ると１時間に「２」しかないという計算になっている。なので、もっと見てもらえるといいサイトなのかなと思った。

あと、２番目が「逸品土産」だが、13 番目に「逸品土産 vol.２」というのがランクインしており、なんでこんなに差があるのか。同じように良いものを載せているはずなのに、こんなに見られないものなのかと思った。

また、飲食店に行けない状況で、テイクアウトとか街を応援しようと言って緊急事態宣言１回目の時に始めた「エール飯」が 18 位ということで殆ど見られていない。見せ方を変えていくとか、何かしないといけないのかなと感じた。

IT でまだできることがたくさんありそうだなと感じた、アクセス解析の結果だと思う。

(事務局)

まず、PV 数が実際多いのか少ないのか、どれくらいがサイトパワーとして良い数字なのかという基準値を正直持ち合わせていない。その辺りは「PV 数はもっとここくらいの目標値とした方が良い」というのがあれば教えていただきたい。「逸品土産 vol.２」の特集がどうして上がってこないのか、というところについては、報告書を挙げていただいている事業者に分析してもらいたいと思った。

エール飯の企画に関しては、リリースした当時の月間 PV 数は上位、確か２位に来ており、お土産のランキングを抜いていた。ただ、そこから SNS 上でも「＃立川エール飯」をつけて投稿する人も、かなり下火になっており、全国的にも、別府のエール飯から始まったムーブメントがかなり下火になっているため、「エール飯でハッシュタグ付けて」というコンセプトがオワコンになってしまっている状況と認知している。そのため、そのサイト自体を盛り上げるのか、違う飲食店応援の取組をするべきなのかは、違うレイヤーの話になるが考えていかなければいけないと思っている。

(G 委員)

PV 数とか訪問者数というトラフィックの数は、予算とも直結するため、どれだけコンテンツを持

っているかということによって、そのサイトの全体の訪問者数、PV 数は変わってくる。感覚値からいうと、１ヶ月で 1,354PV というのは、まあそんなにひどくはないかなという数字。

私がやっている WEB サイトでも、古い記事になってきたりすると数百 PV というものも存在する。ただ、これが、どれだけビジネスに有効な数なのかといわれると、ちょっと厳しい数字かなと思う。

また、「どこからくるのか」というのも問題。なぜ「立川絶賛逸品土産」が２位で、それ以外が少ないのか。ウェブサイトの TOP ページから入ってくるわけではなく、検索から入ってくるというような、その SEO がどう効いているか、というような入り方。ためしに「立川」「お土産」で検索してみると、「立川絶賛逸品土産」が検索の４位に来る状況で、おそらくそこから流入しているのではと思う。TOP ページからは行き着きにくい場所にあるので、TOP ページから入ってくるという状況ではないのかなと。

サイト構造の改善も必要だし、検索上位に入っていくためには、「立川」ってわざわざ検索しなくても、何か違うキーワードでも入ってくるような、キーワード施策というものも考えていかなければいけない。

いずれにせよ、もう少しサイト全体のトラフィックの底上げをどうしていくのか、というのが戦略上必要かと。予算があまりかけられないなら、もう少し SNS を活用するなど、違う方法も考える必要がある。戦略の再策定ということが必要かと。

（事務局）

予算に関しては、実際そこまで大きな予算を投じていないというのが実情。今年「たらった立川」の SNS、インスタグラムを立ち上げてやってみたりもしているが、フォロワーが少しずつ増えているくらいで、実際に強いパワーを持っているわけではない。できることを少しずつやりながら、検証を進めている状況。

先ほどの話でもお伝えしたが、このサイト自体をパワーアップしていくのか。観光協会のサイトにも観光協会推奨認定品のお土産ページがあり、そのページを見られるように観光協会のサイトパワーを上げていくのか。それとも両方なのか。

それぞれが別々のこと考えながらやっていくと、無駄な投資になってしまうので、そこをしっかり今後やっていかなければいけない。まだ明確な答えは見えていないという状況。

（会長）

次回の進捗状況の報告でまたお聞きしたいと思う。

（副会長）

コロナ禍で、動画による観光情報の配信というのが、すごくアクセス数が伸びていると聞いている。例えば、バーチャル、動画でファーレの中を歩けるなど、バーチャルで疑似体験できるようなサイトを作るというような予定はあるのか。

（事務局）

現状はない。施策のところで、オンラインツアーを充実していこうという方針（１－１（１）③）はあり、この前まちの案内人がファーレ立川をテーマに、東京都の助成事業を使ってオンラインツアーを実施した。定員 20 人のところ満員で、実際に６人位都外の方だったと聞いている。

立川のコンテンツでもわざわざ都外からオンラインで参加したいという方がいらっしゃるということがわかり、まちの案内人も「オンラインでも結構できる」という経験値も積まれ、可能性を

感じたと聞いている。今後はそういったところも織り交ぜながら、アフターコロナにおいても、ファーレなどは特に、もしかしたら海外の方へ向けても発信できるコンテンツになりうると思っているので、まちの案内人の外国語チームの方とやってみてもいいかもしれないし、可能性を感じている。

動画に関しては、広報課が立川氏動画チャンネルに年間４～５本の立川の魅力を伝える動画を、今年度引き続き作成している。あとは、シティプロモーション動画ということで、今年度末に、２本新しい動画を配信する予定。広報課の中で、魅力発信の動画は引き続きやっていく方針。

ただ観光としては特に予算を取っていない。最近だと、昨年度発信できなかった「とあるのアニメ」を使った Weibo 向けの動画を今年度発信した。Weibo で１ヶ月約 100 万回再生。日本の YouTube では１ヶ月１万回再生と、瞬間風速的に再生数が上がったという実態がある。

ただ、本来中華圏、インバウンドの方が、少しでも、今年は「とあるのアニメ」が 10 周年だったので、そこに併せて来ていただけるという戦略で打っていたが、そこがコロナでストップしてしまった。視聴者からの感想でも、「コロナが終わったら立川に遊びに行くよ」というコメントがかなり書込みされていたということを確認できたくらいで、経済の循環には今のところつながらなかったというのは残念だったが、このような取組をしている。

(C 委員)

報告も含めてだが、立川商工会議所で MICE の取組を行っており、来年度運営団体を作って行うということで今準備している中で、HP の関係については、観光協会、市の関係、たらった立川からも情報を得るような方向で進めている状況。HP 作成について途中であり、来年度東京都から最終的な予算をいただくので、それも含めて最終的に立川の紹介動画についても作成する予定。

いずれにせよ、こういったコロナ禍でインバウンドをどうやって呼び寄せるのか、そういう話については非常に難しい状況の中ではあるが、色々な形で MICE というのは行われたりしている。コロナ禍が終わった後は、100％戻るとは言えないにしても、色々な形で立川へのインバウント効果というのは上がってくると思うので、しっかりと準備していきたい。

(D 委員)

アクセス解析の流入経路のサマリーというところで、検索エンジンで見る場合というのは、基本的には知っている人が探して直接来るというのが多いと思う。他のところから波及してくると考えると、リンクや SNS というものと、直帰率の数字持っていくと、直帰率の数字とアクセスランキングを見てみると、20 個のうち半分以上が食べ物とか、わりと偏っている。

SNS 関係で新しく広げていくとなれば、もう少し偏りを持ってやっていいのではないか。今、ハッシュタグでインスタを調べていたが、たらったの公式フォロワーが 655。「＃たらった」でやっている方が 700 人位いらっしゃるが、そういったところから広がる要素がまだあるのではないかと思っている。そういったところでやっていくのがいいのではないか。

(H 委員)

仕込みの時期として今を考えると、少し気分が晴れるかなと。何を仕込むかというときに、３つの経験を話して、こういう方法があるのではないかと伝えたい。

行政財産、行政観光をどれだけ仕込むかというのが、コロナの時期にあってもいいのではないか。20 年位前、東京でＧ７の会議があり、大統領たちが来た。国際会議なので、奥さん達もついてくる。マダムメニューというのがセットされ、歌舞伎であったり、お茶であったりで普通セットされる。

しかし、ヒラリー・クリントンは「私は目黒の清掃工場を見に行く」と突然言った。彼女は大統領になることを頭の片隅に考えていたと思うが、東京という大都市のど真ん中に、清掃工場が住宅地にある。どうしてそんなことができるのか、目で見たいということで来た。それ以降、韓国の大統領夫人とか、色々なところから、清掃工場を見に来る、そんな現象があった。

面白いなと思ったのは、観光的に日本が接待する歌舞伎とかお茶ではなく、もっとリアルな行政課題、生活課題に興味を持っている、そういう時代になりつつあると感じた。

もう一つは、上海政府から声がかかって行ったのだが、上海は郊外が非常に殺伐としている。このまま上海の都心だけの一挙集中になってはいけない、郊外をどうバランスよく発展させていくか。そのために、東京の多摩を見習いたい、特に立川の、業務の集積と、それによって発展してきたこの街、この界隈の在り様を学びたいとメッセージがあり、説明に行った。

立川、多摩に学びたい。多摩のまちづくりを学びたい。立川が基地の後に何をどうしたか、そういうことを学びたいと思っている。交通インフラも含めて。そういうことを今メッセージにしておいて、コロナが終わった時に来てもらう。一度来れば、ソラノホテルとかも平気で泊まるし、MICEとも絡めて、中国をターゲットとして、行政観光から仕込みをしておくというのも一つ。

もう一つは、前にもお伝えしたが、自治大学校がある。自治大学校は全国の自治体にとってのいわば幹部を育てるところ。要は、憧れの立川、憧れの自治大学校であり、役人にとってのメッカ。卒業した後に集まってここで一杯やろうとか、立川で集まろう、立川で、立川で、というのが、結集軸になっている。これを使わない手はない。色々な形に使えると思う。色々なネットワークができるので、それをもらって、ホテルを割引するよとか、そういう話にすれば、自治大学校の２万人プラス何十万という全国の役人がいるので、それを使えるという視点も持っていいのではないか。アフターコロナを考えながら、仕組みを考える。それをシティプロモーションとして、市役所がやる。そのためには、中国のマーケットと全国の自治大学校卒業生のマーケット。その２つは意外と使えるのではないかと思っている。

（会長）

自治大学校について補足だが、自治大学校ができたときに商工会議所から自転車を寄贈した。それは、色々なところに出かけてくださいという意味で、寄贈させていただいた。それから 20 年位経つが、今どうなっているか、ちょっと気になる。

（事務局）

その後にも、私が商工振興係長だったときも 10 年くらいたったくらいだったが、商工会議所に寄贈していただいた自転車が少し古くなったので、また新しい自転車の寄贈の話があった。その時は新品ではないが、シルバー人材センターできれいにした自転車を何十台か持って行った記憶がある。それは、自治大学校の学生に街を見てもらいたいという趣旨があったのは間違いない。

立川市からも、半年のコースに１名、課長が参加する３週間位のコースに１名、係長が３ヶ月位にわたって行くコースに１名と、必ず年間だいたい３名くらい、立川から送り出している。それぞれ、当時同じのフロアにいた仲間らと同窓会みたいな形で集まっているという話は聞いている。毎年立川というわけではなく、毎年幹事を変えて、それぞれで集まったりしているが、何年かに１回は立川にという話が仲間の中でも必ず出る。その都度、立川の街も変化が激しいので、そこを立川市の職員が案内しているという話も聞いている。大いに可能性がある話で、力入れていくべきところだと思う。

（会長）

一度立川市の手配で、自治大学校の方と我々地域の方が集まって勉強会、結局飲み会にはなるが、何回かやらせていただいた。その後、続かなかったが、気の利いた方がお土産品を紹介してくださったりと、そういったことは徐々にお願いはしていた。今は少し手薄になっているところかもしれない。

（H 委員）

地元が愛知で、うちの近くの市町村からみんな行くのだが、誰かが幹事になるということを別に組織的に決めたわけではないんですよね。飲み会というとみんなそうだが、わりとこう盛り上がったやつがやって、「俺がしばらくやるぜ」ということで、そういう言わばコアパーソンをどう確保するか。その情報があると「今度来た時にはこのホテルを使ってやってくれると少し面倒見るから」とか、意外とつぶしやすいのではないかと思う。立川市の職員が動くのも効率良いと思うが、なかなかそういうばかりとはいかないので、キーパーソンをこちらからもらえるような、そういうマーケット情報をつなげていくと面白いのではないか。

（会長）

行政施設でいうと、極地研もかなり人気が高まっている。子どもとネットで色々やったりして、人気が高まっていると聞いたことがある。その辺も進めていかなければいけないなと思う。

（H 委員）

役所の施設っておいしいところがいっぱいあるんですよね。

（会長）

立川は恵まれている。

（H 委員）

八王子にも残っているが、本当に恵まれていると思う。

（E 委員）

コロナになってから、「新しく取り組んだこと」というのは、なかなか無いというか、とにかく輸送を継続することがまず第一になってきてしまっているというところと、なかなかお客様に足を運んでいただくということをやりにくくなってしまった中で、今年度イベントで予定していたビール列車や基地まつりとか、施設と一緒に乗車券と入場券をセットで販売するというのも中止してしまっているので、なかなかやっていることとして申し上げることができない。

その中で少しやってみたのは、オリジナルのグッズを作成しており、それを自社の HP だけではなく、外の通販サイトを使って販売したりというようなことは、少し動き始めている。やはり IT をうまく使わなければいけないかなと思っている。

今後、取り組むべきもの、やらなければいけないこととして、全く具体的な取組まではいけていないが、１つはやはり地元のお客様を取り戻していきたいというのがある。多摩地域を縦、南北に動いているというところがあるので、東西に動いている、接続をしている他社私鉄、西武や京王などと連携をして、少しその南北東西で面的に動いていただけるようなことをしていけないかということを少し話し始めたところ。

そうは言ってもなかなか、乗っていただくということまでには時間がかかると思っているので、もう一つは鉄道以外の収入。

あとは、地域とのコラボみたいなところでいくと、ちょっと話が出ていたロケーションサービス、撮影いただくということをもう少し力を入れてできないかなということは考えている。

また、駅の構内の臨時の販売スペースというのがあり、有料で貸している。スポットでやっていただいているが、例えばそこで上手く条件が合えば、地元の方とコラボレーションしていけないかなということを、少しずつ手探りで考え始めている。

いずれにしても、幅を広げて、人が動いていけるというところまで繋れることができればというところと、そうはいってもなかなか密を避けるようにしていかなければいけないので、沿線を集団で動くというよりも、もう少し少ない単位で、個々に散歩をしていただくというイメージを沿線全体で持っていただけるようなことができればいいなというのは、個人的に思うところ。

（会長）

施策については、市で次年度重点的に取り組む項目もこれからどんどん出てくると思う。また次回以降、機会があれば、進捗状況を確認していきたいと思う。

情報交換ということで、コロナがいつ終わるのかというのはわからないが、コロナがあって初めて取り組めたこと、気づいたこと、コロナが終息したら取り組みたいこと、何か取り組んだこと、フリートークで皆様から意見いただきたい。

私からですが、第一波が５月末位に終わり、第二波が８月、９月位に終わり、その後の状況を見ていると相当人出があった。特に９月 10 月の人の出というのは、本当にこんなに人が来るのかなというくらい人が来て。やっぱりコロナがあっても皆さん外出の意欲、観光の意欲というのは、なかなか衰えない。逆に高まったのではないかという気がする。

コロナさえ終息してくれればＶ字回復も少し期待できるのではないか、という感想は持っている。そういった中で皆さんもいろいろ取組されているかと思うが。コロナがあって気づいたこととか、特別な対応などあれば、話しを聞かせていただきたい。

（副会長）

観光という面では、インバウンドがかなり落ち込んでいたと思うが、いわゆるマイクロツーリズムというのか、すぐそばに出かけていくという機会は、逆に増えている方が多いという話を聞いている。

地元の野菜を売っているお店をやっているが、おかげさまでそのお店の売上は逆に２割くらい伸びており、残念なことに持続化給付金がもらえなかった。

そういった、地元のものを地元で楽しもうという動きというのは、逆に新たな気づきとして、皆さん、このコロナで目の当たりにされたところがあると思う。

コロナ明け、にこのあたりはいいターゲットにしていけるのではないか。立川を中心に多摩を遊ぶというところは面白いのではないか。

（Ｉ委員）

仕事の関連でいうと、テレワークの環境を整備していこうということで最初は忙しくやっていた。その後は、割と学校関係の仕事を結構やって、ギガスク対応みたいなことをしていたが、そこでみんなが端末を持ってオンライン会議ができ、オンライン会議だけどリアルタイムで参加しなければいけないという状態からストリーミング配信というか、録画できるようになって、自分がいつでも

タイミングの良いときに見ればよいという話になった。そこからさらに１歩、できればいいなと思って取り組もうとしていることが、それを生涯教育というか、リカレント教育というか、そういったところにつなげていければ良いのではないかという話をしている。

というのは、大学も毎年毎年同じような授業をするところと、企業も新しい人が入ってきて伝えていくことはそう変わらないところがあり、それが今映像で残せるようになってきた。人には寿命があるけれども、映像はずっと残せるというところで、例えば、今はもういらっしゃらないが、松下幸之助さんとかが話している話って、今見られるのであれば自分はすごく見たい。今オンラインでそれができるようになり、これでようやく、ここから先ずっと残せるようになってきたものだったりするので、立川でも「こういうのって財産」「この人だから意味がある」というのをストックしていくアーカイブというところは、このコロナがあって、オンラインから生まれてきた、その次に仕掛けられる価値なのではないかというのは感じている。それをもうちょっと整理して、みんなでできるようにしていきたいと思ってやっている。

（会長）

こういうことって、予備校とかは前からやっていることなんですよね。遅れていたんでしょうね。

（D 委員）

基本的に我々、会って、集まってやるっていうのが当たり前に刷り込まれていたので、いろいろなルール、考え方を変えるきっかけになったというのはすごく思う。

昨年の２月位から、全国的に変容を迫られていったが、ある種、会うとか集まるとかっていう固定概念に対するアレルギーみたいなものはすごく無くなってきている。今年推していくものが２つあり、改めて SDGs、2019 年度に立川市と締結したが、協働推進共同宣言というものを基本的に進めていくというのと、コロナ禍で、経済もそうだが、一番初めに被害を受けた部分に教育現場があると思っており、一斉休校があったように教育の機会を保障していくという部分で、ICT 教育。例えば、義務教育もそうだが、そういったものにフォーカスして進めていくつもり。

また、私の社業でいうと、神社は１回目の緊急事態宣言の時は、実はものすごく人が増えた。今、散歩も密を避けたりと、日常的なルートということで割と増えていた。

落としていくかは別にして、神社がその地域における憩いの場なのかなと、鎮守ということからすると。改めて、そういった側面で価値があるということがわかった。

逆に言うと、日常でなくても良いと思う方ももちろんいると思うが、この状況下で必要とされている部分としては、精神的な安らぎだったりとか、そういったものを提供できているという実感があった。引き続き厳しい状況下ではあるが、そういった部分でも地域に貢献していけたらと思う。

一応、神社業界でも献血事業というのを始めている。例えばブルーライトとか医療従事者の支援を、直接的なものではなかなか難しいと思うが、そういうところも連携してやっている。

（J 委員）

仕事の方は、インバウンド関係は全く仕事がなく、今月中旬に一応業務予定、バスケットボールのアジア大会が日本で開催されるということで、その関係の仕事のオファーをいただいていたが、開催地変更という形になってしまった。

ただ、他の国では国際大会が始まっているので、これから日本でも増えてくるというか、前はほとんどなかった、０の状況から１、２、３と増えていくのではないかと思っている。オリンピックについては、ちょっと開催可否が分からないにせよ、他の国際スポーツ大会、国際会議などはやは

り開催していくとは思うので、そこは今もう我慢するしかないと思っている。

個人的な生活という面では、なかなか外出することが厳しいので、やはり現状で言うと、普段の暮らしの中で、立川市の中で暮らしやすい生活というのを、市にお願いしていきたいし、そうしてほしいと思っている。市民割もそうだし、ポイントカード制度もそうだが、地域ごとに無料開放日とか設定していただいたりして、密を避けながら、かつ近隣も含めて、そういう施設の無料開放日とか、できる範囲で行っていただけたらなと。それによって、改めて地元の施設の魅力とかも、知るきっかけになるのではないかと思っている。

（副会長）

このコロナで、働き方がかなり変わっているというのは皆さんご存じだと思うが、行政の後押しもあって、サテライトオフィスと言われるもの、もともとシェアオフィスやサテライトオフィスがここで立川はすごく増えている。うちも何か所かやっていて、ここでもう一か所増やす。

そういうところに来ている方で大企業に勤めている人は、ただ働く場所で来て帰るって感じだったのが、そういったサテライトやシェアオフィスに来ている方は「地域とつながりたい」という思いをすごく持たれているようだ。

行政の方にも、そういった活動団体を紹介してくれという話に行かれたりもしているようなことも聞いている。まずそういった方をターゲットにした、観光施策ということも今後考えられていくのかなと思っている。

（会長）

確か、どこかのホテルで、１日 500 円で、サテライトオフィスとして貸してくれるところもあるとか。

（事務局）

東横インとエミシア東京。東京都の補助金が入っており、借り上げている。

（F 委員）

12/25 に花火をあげさせていただき、皆様に大変好評をいただいたが、ご承知のとおりその翌日から閉園となっている。まさか、今日も閉園で皆様にお会いできないなんていうのは、想像もしなかった。やはりお客様からは、「なぜ開けないのか」というような問合せも実際に多く受けている。今開けられているのは、無料区のみということになるが、この判断についても、なかなか厳しい判断の中で、開けることを選んだところ。

個人的には、こういう時だからこそ、公園の中でゆっくりと時間を過ごしていただいて、このコロナの様々ストレスを発散していただければと思うところだが、なかなか叶わない。もう少しコロナとの闘いが続くだろうなと思っている。

そんな中でも、SNS を通じた情報の発信については、おかげさまで、ある先生にも関わっていただきながら、何をどう伝えていくのかというのを一から作り直し、ここ半年間くらいの SNS をご覧なっていただけると変化が分かるかと思うが、ただ回数を打つのではなく、しっかりとテーマを持った活用をさせていただいている、その結果が多くの皆様に支持されているのかなというところ。

（会長）

そろそろお時間となってまいりました。またこの協議会は続くと思いますが、一度、２年の任期

はここで終わりということで、今後の動き、並びにスケジュール等について、事務局からお願いします。

（事務局）

今、会長からお話しいただきましたとおり、本日の協議会をもって、当初任期としていた２年が満了。計画策定の１年間、また状況がコロナ禍に突入してしまったわけだが、推進初年度の１年間、２年間にわたり、ご協力をいただき、感謝申し上げる。来年度新たに、満任期２年間の協議会を発足する形となる。主に、推進に関することが役割となる。各関連機関へは改めて、依頼をさせていただく。市民委員の方々については、新たにまた募集をする。当然、再任を妨げるものではない。ぜひ引き続き関わっていただけるようであれば、ぜひ自薦やご応募程よろしくお願いしたいと考えている。

（副会長）

皆様２年間お疲れ様でございました。一年はコロナでなかなかお会いできなかったが、本当にもっともっと一緒に話したいというようなメンバーで構成されていたのかなと思います。２年間お疲れ様でした。